令和６年度　第１回倉敷教育センター運営委員会　会議録

１　日　時　　令和６年７月２５日（木）　１０：００～１２：００

２　場　所　　倉敷教育センター研修室

３　出席者

・委　員（１４名）

委員長　荻野　正樹
副委員長　有森　真理
委　員　守屋　恭子　　福田　知子　　三宅　勝
山田　由美（欠席）細川　欣洋　　小久保圭一郎（欠席）
門田　昌子　　伊住　継行（欠席）田中　栄嗣
丸野　善嗣　　横山　武典　　杉本　直美

・事務局（８名）

市教委指導課　課　　長　石岡　与明
教育センター　館　　長　藤田　哲彦
指導主幹　村中　千春　　才野　博紀
指導主任　段堂　博紀　　辻原　綾子
岡田　三枝　　鳥越　威志

４　説明及び協議

（１）研修講座について

〇事務局より説明

〇協　議

委　員　　年代別、キャリア別、校種別でいろいろな研修があり、非常に助かっている。研修に行くと、勤務校では得られないようないろいろな情報を知ることができる。研修を倉敷市内で受けられるということもありがたい。遠隔研修は、現場を離れずにできるのがよい。学校はぎりぎりの人数でやっているので、遠方での研修になると学校が回らなくなる。今後もこのように工夫をした研修をやっていただきたい。

委　員　　ブラザー＆シスター研修は効果的で、学びが大きい。先輩としての在り方なども学べるので、これからも続けていってほしい。中堅教諭資質向上研修を受けた教員の成長を実感している。学校組織の中での在り方や自分が学校にどのように関わっていくかについて、意識を高めている。研修講座の中で、昨年度と今年度でどういったことが変わったのかを教えてほしい。

事務局　　初任者研修では、昨年度までは研修の振り返りとしてアンケートを実施していたが、今年度からは学びを再構築・蓄積していくことをねらい、振り返りにより重きを置いた研修記録シートという形に

変更している。また、昨年度までの特別支援教育研修と授業ユニバーサルデザイン研修を統合・整理して、今年度は教育のユニバーサルデザイン研修にしている。通常学級における特別支援教育の観点を生かした授業づくりや学級づくり等について扱っている。

委　員　昨年度、初任者研修の研修会場園になった。公開保育に参加していただき、幼稚園の学びが小学校の学びへどのようにつながっていくかを学んでいただいた。公開保育を見ていただくことは少ないので、幼稚園にとっても貴重な経験となった。

委　員　２年目研修で講師をした。どの先生も真剣に話を聞いていた。生徒指導上の問題を解決するためにチームで対応することの大切さを伝えた。自身も講師としてアウトプットすることで勉強になった。

委　員　若い先生方のすばらしいところは多い。一方で、以前とは違い、我々の体験を伝えたいと思っても､若い先生方にあまり伝わらない。経験値に違いがある中で、若い先生方にどのように伝えていくのがいいのかを悩むことがある。

委　員　ジェネレーションギャップを感じることはある。研修も不易と流行の部分がないといけない。現在、倉敷教育センターでは、特に流行の部分について変革をしているのがよいと思う。中堅教諭資質向上研修は特定課題研究が目玉である。受講者・倉敷教育センターとも負担感があるとは思うが、子どもに学びを委ねるのがキーワードになっている現在、テーマを決めて研究を進めていくということを先生自身が経験しておくのが大切だと思うので、続けていただきたい。県総合教育センターはその時その時の教育課題に応じて、ある程度、研究テーマが絞り込まれている。倉敷の先生方の課題と思われるところをいくつかピックアップして、選択肢の中から、テーマを選んでいくのも面白いかもしれない。同じように学びを委ねるという点で、総合的な学習の時間については、学ぶ機会が少ないので、若手の先生が学べる機会があるとありがたい。小学校では初任者研修の後補充の先生の確保で非常に苦労している。もし何か工夫してもらえるのであればありがたい。

委　員　ライフパーク倉敷ではたくさんの研修を計画されている。この研修の場が適切に確保されること、そして支障なく研修が行われるようにしていくことは我々の使命だと思っている。これからも支えになれればと思う。

委　員　事務局に伺いたい。受講者の先生方の様子は以前と比べて変わりつつあるか。

事務局　中堅教諭資質向上研修の受講は採用８、９、１０年目から選択できるが、８年目で受ける先生が増えている。８年目と１０年目では経験値も大分違い、同じように話をしているつもりがなかなか伝わらないと思うこともある。講師の先生方とも相談しながら、先生方がもっている経験と結びつけられるような研修を、そして先生方が明日からこうしてみようと一歩踏み出せるような研修を計画した

い。コロナ禍があり、大学での経験の差が出ているのかなと思っている。また、自分の考えをしっかりと述べることができる先生が増えている。一方、メンタルの不調を訴える先生もいて、どのようにメンタルヘルスを保っていくのかが課題だと感じており、メンタルヘルスに関する研修も計画している。

委　員　　大学に勤務しているが、学生の発信力は上がっていると感じることがある。

委　員　　行政職を見渡した時に、市職員もしっかり意見を言うことができる人が増えていると感じる。

委　員　　小規模校だと常に誰かが出張に出ているという現実があるので、なかなか受講奨励をしにくいが、対面と遠隔を組み合わせたハイフレックス研修だと少しハードルが下がるのでありがたい。

（２）適応指導について

〇事務局より説明

〇協　議

委　員　　不登校生徒に関して、本校の場合、ふれあい教室につなげられたのはごく一部の生徒であり、他は担任が家庭訪問等を繰り返しながら当該生徒とつながっている。不登校に関して臨床的な視点からどう考えるか。

委　員　　大学の相談室で、子どもや保護者の方と面談をすることがある。オンライン指導の目安は幅広い方がありがたい。ホームページ等にオンライン指導の説明動画があるとよいのではと思う。不登校は情緒的な問題のみならず、発達障がいが絡むケースも多いので、施設等の紹介動画があると活動の見通しがもてるのではないか。オンライン指導のことは利用者から聞いた。周知されつつあると思う。

委　員　　高等学校のうち、定時制の高等学校には不登校だった子どもも多く通っている。高等学校でも不登校の状況が続いているかというと、本校では８割程の生徒が改善している。学校説明会にも参加し、ここなら行けるという思いをもった生徒が多いからではないか。併せて、しっかり基礎を振り返りながら、学び直しができる環境が生徒にとってよいのではないか。本校の生徒は、自分の行動をしっかり認めてもらえるという環境の下、自己有用感や自己肯定感を高めている。一方で、なかなか不登校傾向が改善せず、別の道を選ぶ生徒もおり、その辺りは課題である。

委　員　　オンライン指導を受ける際は子どもだけの参加でよいのか。

事務局　　子どもだけでよい。小学生でも同様である。機器の接続の面で保護者の助けを借りることは想定される。

委　員　　生涯学習課では、居場所事業として、毎週金曜日に連島公民館でＮＰＯが活動している。対象は不登校の子どもとその保護者であり、ボランティアも参加している。学び直し事業は倉敷駅西ビルのシティプラザで実施しており、中学校卒業から３９歳までの人が参加し

ている。高等学校在学中の人もいる。先日のさわやかデーは日帰りで実施した。不登校の原因は何か。発達障がいが絡むこともあるということだが、これを解決するには原因を明らかにする必要があるのではないか。

事務局　原因は本当にいろいろある。だからこそ、原因追究よりも不登校対策スタンダードをもとに、どのような状態でいるのかを見極めて支援することに重きをおいている。

委　員　休んで数日経つと、本人も何が不登校の原因だったか分からなくなることがある。

（３）教育相談について

〇事務局より説明

〇協　議

委　員　青少年育成センターには補導業務の他、相談業務もある。昨年度の電話・来所・メール相談は合わせて７２３件あった。子どもの友人関係や進路の悩みに関する相談などがあった。また、少年の相談だけでなく成人からの相談もあった。

委　員　保健所でも電話相談や面談がある。場合によっては家庭訪問をすることもある。自傷行為について、医療機関からの連絡も入る。受診した方がよいのではということで保健所に相談がくることもあり、思春期外来を紹介することがある。知らない大人と話をすることは子どものストレスになるかもしれないので、まず親と話し、できそうなら子どもとも話すようにしている。夏になると残念ながら自殺が増える傾向がある。保健と福祉と教育とがしっかり連携できるように、倉敷教育センターや青少年育成センターと協力して啓発を進めていきたい。